

資源管理協定の中間検証

自己評価年月日：令和7年 3月14日

自己評価作成者：協定代表者

＜基本情報＞

協定の情報	協定の名称	神奈川県横須賀市東部地区におけるタチウオに関するはえなわ漁業の資源管理協定					
	対象の水域	神奈川県地先海面					
	対象の資源	タチウオ（資源管理方針別紙3-3）					
	対象の漁業	はえなわ漁業					
	協定の有効期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで					
検証の日程等	中間検証（有効期間の 2 分の 1）	有効期間終了時の検証		備考			
	令和 6 年度	令和 8 年度(予定)					

＜取組の概要と評価（対象の資源ごとに作成）＞

対象の資源名		タチウオ（資源管理基本方針別紙3-3）						
対象資源の総漁獲量に対する協定参加者の漁獲量の割合(令和4年度)			対象資源の令和 4 年度の県内の総漁獲量344トンに対し、協定参加者による漁獲量は31トンであり、約9%を占める。					
資源管理の目標と取組内容	資源管理の目標		「神奈川 県周辺海域における重要水産資源の動向」において判断される資源水準を、令和13年までに中位以上に回復させることを目指す。					
	取組内容		市場休みの前日及び毎週土曜日を休漁日とする。 体重200g以下のタチウオの採捕を禁止する。					
	その他の管理措置		自主規制として金曜日を休漁とし、300 g 以下の魚は水揚げしていない。					
履行の状況 ○:全参加者が履行 ×:上記以外		単位	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	備考
	履行状況	-	○	○	取組中			履行の状況は、タチウオ資源を管理対象とする1地区の延縄漁業5隻について、履行確認期間である令和4年4月～令和6年12月間で集計。 取組実績は、協定で定めた資源管理措置のうち、禁漁日にとり控えられたタチウオの量を推定した結果である。 参加隻数は、漁獲実績があった船の数である。
	参加隻数	隻	5	5	5			
	水揚げ量	トン	31.0	40.0	29.3			
	取組実績	トン	19.4	27.2	22.3			
資源状況		東京湾のタチウオは、小型機船底びき網漁業（以下、小底）によって安定した漁獲があるほか、遊漁やまき網による資源利用は小底を上回るとみられることから、東京湾内の資源水準は「高位」と判断した。小柴の小底の漁獲量は（このところ200トンを超える高レベルで推移しており、過去 5 年の傾向から動向は「増加」と判断した（R7.1月公表 令和6年神奈川 県周辺海域における重要水産資源の動向より）。						
取組の評価		取組の効果があり継続する ・ 効果はあったが改善が必要である ・ 効果は認められず改善が必要である ・ 想定外の外部要因により効果は判定できない （外部要因を考慮した取組の改善が必要）						
評価内容		禁漁日の設定：取り控えられたと推定された各年のタチウオの量は協定参画船による漁獲量の6～8割となった。東京湾内の資源状態は良好なタチウオではあるが、禁漁日に休漁することに加え、他の漁業種類での出漁などにより、想定より多くの取り控えができています。 小型魚保護：延縄によって釣獲されるタチウオは、200 g より小さいと判断されれば素早く海に戻すことができる。スレに弱い本種の再放流による生き残りは、他の漁業種類より良いことが期待できる。						
取組の改善点等		300 g 以下を採捕禁止とすることを検討する。						

＜資源管理協定全体の評価及び改善点等＞

評価結果	取組の効果が継続する ・ 効果はあったが改善が必要である ・ 効果は認められず改善が必要である ・ 想定外の外部要因により効果は判定できない（外部要因を考慮した取組の改善が必要）
	評価内容 禁漁日設定は想定より多くのタチウオの取り控えにつながり、東京湾内での本種の成長は早く、小型魚保護のための放流後の漁獲加入も十分期待されることから、漁獲圧力軽減の効果はあると判断し、引き続き現行の取り組みを継続する。

＜資源管理協議会等による検証＞

検証年月日： 令和 7 年 3 月 28日

検証結果	取組の効果が継続する ・ 効果はあったが改善が必要である ・ 効果は認められず改善が必要である ・ 想定外の外部要因により効果は判定できない（外部要因を考慮した取組の改善が必要）
	検証内容 協定に基づく休漁日の設定は4割以上の漁獲量の抑制効果が認められた。また、成長や性成熟が早いというタチウオの生物学的特性から、協定に基づく小型魚の再放流は成長乱獲だけでなく加入乱獲の防止に効果的であると考えられる。協定に定められている資源管理措置は科学的根拠に基づいており、東京湾のタチウオ資源は高水準で推移していることから、今後も現在の取組を継続して資源管理に取り組むべきであると考えられる。